

令和元年度

主要施策の成果に関する調書

警察本部



# 目 次

5	豊かな自然との共生と地球環境の保全	1
(1)	地球環境を守る低炭素社会づくり	1
6	安心・安全な県民生活の実現	2
(1)	強靱な県土づくりと危機管理体制の強化	2
(2)	どこよりも安全で安心して暮らせる地域社会づくり	3



## 5 豊かな自然との共生と地球環境の保全

### (1) 地球環境を守る低炭素社会づくり

(単位：千円)

予 算 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			決 算 額	財 源 内 訳		
		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源
警 察 施 設 費	67,426	—	—	67,426	63,716	—	47,000	16,716
内 訳 警察施設補修事業費	67,426	—	—	67,426	63,716	—	47,000	16,716

#### (1) 警察施設補修事業費（会計課）～県庁舎空調設備更新事業

##### <1> 施策の目的

設置から20年以上が経過し、老朽化している行政庁舎等の空調機器を計画的に更新することにより、燃料消費量の低減を図る。

##### <2> 施策の実施状況(アウトプット)

警察本部庁舎の空調設備は、空調熱源設備（冷温水発生機2基、氷蓄熱ユニット2基）、空調機、換気設備、特殊換気設備、排煙設備、自動制御設備で構成され、業務上重要な機器を冷却するため24時間空調を行っている。

これらの機器は、設置後20年以上が経過し、老朽化による故障の発生、機器能力の低下による電気・ガス使用量が増加していることから行政庁舎等の空調機器更新と連携し計画的に更新を行う。

○ 冷温水発生機（7号）の更新

##### <3> 施策の実施による成果(アウトカム)

冷温水発生機（7号）を更新し、燃料消費量の低減が見込まれる。

## 6 安心・安全な県民生活の実現

### (1) 強靱な県土づくりと危機管理体制の強化

(単位：千円)

予 算 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			決 算 額	財 源 内 訳		
		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源
装 備 費	1,493	700	782	11	1,221	590	625	6
内 装 備 費	1,493	700	782	11	1,221	590	625	6
内 一 般 警 察 活 動 費	7,378	1,311	1,160	4,907	4,715	704	716	3,295
内 一 般 警 察 活 動 費	7,378	1,311	1,160	4,907	4,715	704	716	3,295
計	8,871	2,011	1,942	4,918	5,936	1,294	1,341	3,301

#### (1) 装備費，一般警察活動費（警備課・機動隊）～災害警備対策等推進事業

##### <1> 施策の目的

大規模災害等に迅速・的確に対応し，県民の安全を確保する。

##### <2> 施策の実施状況(アウトプット)

災害等装備資機材や災害用非常食の整備を図るとともに，大規模災害等に迅速・的確に対応するため，九州管区広域緊急援助隊合同訓練をはじめ，機動隊，管区機動隊等の警察機動センター各部隊と消防，自衛隊，海上保安庁等，関係機関との合同訓練を実施して，更なる対処能力向上を図った。

##### <3> 施策の実施による成果(アウトカム)

《合同訓練実施状況（令和元年度中）》

実施年月日	実施場所	訓練内容	参加人数
令和元年10月15日	十島村諏訪之瀬島	離 島 防 災 訓 練	約270人
令和元年10月18日	鹿児島市谷山港	鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練	72人
令和元年10月24日	薩摩川内市	〃	91人
令和元年10月29日	鹿児島市喜入	〃	220人
令和元年11月1日	いちき串木野市	〃	160人
令和2年1月11日	鹿児島市等	桜島火山爆発総合防災訓練	約5,000人
令和2年1月21日，22日	佐賀県武雄市	九州管区広域緊急援助隊合同訓練	486人
令和2年2月9日	薩摩川内市等	鹿児島県原子力防災訓練	約5,000人
令和2年2月25日	鹿児島市	テロ対処訓練	189人

## (2) どこよりも安全で安心して暮らせる地域社会づくり

(単位：千円)

予 算 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			決 算 額	財 源 内 訳		
		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源		国 庫 支 出 金	そ の 他 の 特 定 財 源	一 般 財 源
警 察 本 部 費	67,139	—	—	67,139	62,805	—	—	62,805
内 警察職員庁用費	22,505	—	—	22,505	22,231	—	—	22,231
内 警察機能強化事業費	44,634	—	—	44,634	40,574	—	—	40,574
一 般 警 察 活 動 費	21,329	730	4,203	16,396	20,072	630	3,741	15,701
内 一般警察活動費	2,577	730	1,033	814	2,213	630	911	672
内 高齢者対策事業費	18,752	—	3,170	15,582	17,859	—	2,830	15,029
刑 事 警 察 費	32,935	7,593	8,096	17,246	30,606	6,960	7,073	16,573
内 刑事警察費	19,018	2,658	5,092	11,268	17,435	2,125	4,563	10,747
内 青少年非行防止対策費	4,489	1,485	3,004	—	3,995	1,485	2,510	—
内 緊急治安対策事業費	9,428	3,450	—	5,978	9,176	3,350	—	5,826
交 通 指 導 取 締 費	1,501,555	348,719	584,000	568,836	1,492,510	348,719	581,000	562,791
内 交通事故抑止特別対策費	24,449	4,575	—	19,874	24,306	4,575	—	19,731
内 交通安全保持費	1,477,106	344,144	584,000	548,962	1,468,204	344,144	581,000	543,060
計	1,622,958	357,042	596,299	669,617	1,605,993	356,309	591,814	657,870

### (1) 一般警察活動費、刑事警察費、緊急治安対策事業費（生活安全企画課）～自主防犯活動推進事業

#### ＜1＞ 施策の目的

地域の防犯力の向上を図るため、地域住民等に対し、うそ電話詐欺に関する広報啓発、防犯情報の提供等を行うとともに、防犯ボランティア団体等への活動支援を推進する。

#### ＜2＞ 施策の実施状況(アウトプット)

##### ア うそ電話詐欺に関する広報啓発

うそ電話詐欺被害防止のため、被害防止のチラシやパトロールメモ等を作成し、高齢者をはじめ、あらゆる世代を対象に配布の上、注意喚起を行った。

##### イ 防犯情報の提供

(ア) 犯罪の起きにくい社会づくりの実現のため、地域住民等に向けて犯罪発生情報や防犯対策情報等を提供し、また、地域住民等を対象とした防犯アドバイザーによる参加・体験・実践型防犯教室の開催や防犯ボランティア団体への支援、連携促進等を推進して、地域住民等の防犯意識の啓発・向上を図った。

(イ) 自主防犯活動の活性化方策として、防犯ボランティア団体の代表者交流会等を開催したほか、地域における防犯ボランティア団体によるパトロール活動の支援を図った。

##### ウ 子供の登下校時の見守り活動推進

関係機関・団体の連携・協力の下、車両に「子供の安全パトロール実施中」等の文言が記載されたマグネットシートを貼付し、視覚に訴える警戒活動の推進を図った。

＜3＞ 施策の実施による成果(アウトカム)

ア うそ電話詐欺に関する広報啓発

《チラシ等の作成状況》

チ	ラ	シ	40,000枚
パ	ト	ロ	ール
メ	モ		250,000枚
注	意	喚	起
用	封	筒	100,000枚

イ 防犯情報の提供

(ア) 情報発信の状況

項 目		平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中	
犯罪情報提供： 地図犯罪情報提供システム	アクセス件数	パソコン版	13,582件	14,764件	14,751件
		携帯電話版	124件	144件	68件
		スマートフォン版	4,952件	6,379件	7,623件
防犯情報提供： 県警あんしんメール	登録会員数	11,630人	14,447人	15,837人	
	配信回数	220回	288回	292回	
防犯アドバイザーによる防犯教室等	実施箇所数	9箇所	6箇所	13箇所	

※ 地図犯罪情報提供システムの携帯電話版は、令和元年7月末で運用終了。

(令和元年度中の数値は7月末現在)

(イ) ボランティア団体結成状況等

項 目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
防犯ボランティア団体数	783団体	788団体	728団体
青色防犯パトロール団体数	325団体	327団体	330団体
青色回転灯を装備した自動車台数	1,814台	1,815台	1,821台
防犯パトロール実施者数	8,693人	8,769人	8,591人

ウ 子供の登下校時の見守り活動推進

《マグネットシートの作成状況》

マグネットシート	1,100枚(550台分)
----------	---------------

(2) 警察機能強化事業費（警務課）～警察機能強化事業

＜1＞ 施策の目的

時代の変化や県民の多様なニーズに的確に対応し、限られた警察力で警察の機能を最大限に発揮し、将来にわたり、より高い治安水準を保持できる体制を構築する。

＜2＞ 施策の実施状況(アウトプット)

平成30年11月2日に策定した「鹿児島県警察の機能強化実施計画」の4つのプラン

- 若手警察官の早期育成
- 女性の視点を一層反映した警察運営の推進
- 専門的捜査員の育成強化
- 小規模警察署への支援の強化と時代の要請に応じた警察力の整備

に基づき、各種施策を推進した。

＜3＞ 施策の実施による成果(アウトカム)

ア 若手警察官の早期育成

現場執行力の強化を図るため技能指導官による巡回教養や優秀な人材確保に向けたリクルート活動を実施した。

イ 女性の視点を一層反映した警察運営の推進

女性のスキルアップに向けた研修会や女性職員セミナーの開催等を実施した。

ウ 専門的捜査員の育成強化

職員の対処能力の底上げに向けた警察庁指定広域技能指導官による教養やサイバーセキュリティ研修会への参加等を実施した。

エ 小規模警察署への支援の強化と時代の要請に応じた警察力の整備

令和2年4月の横川警察署再編に向け、地域住民の理解を得るための広報用チラシ・ポスターの作成や各種システム及び表札・案内標識板の改修等を実施した。

(3) 刑事警察費、緊急治安対策事業費（組織犯罪対策課）～暴力団等組織犯罪対策事業

〈1〉 施策の目的

暴力団等犯罪組織を弱体化・壊滅に追い込むため、暴力団対策法をはじめ、あらゆる法令を活用して、徹底した取締りや地域社会と連携した暴力団排除活動を推進する。

〈2〉 施策の実施状況(アウトプット)

行政機関、各種企業等に対する暴力団排除講話を実施し、資金源対策の一環として暴力団等犯罪組織との関係遮断を求め、定款又は取引約款等への暴力団排除条項の導入を働きかけた。

また、公益財団法人鹿児島県暴力追放運動推進センター、関係機関等と連携し、暴力追放県民大会を開催したほか、鹿児島市暴力追放中央大会暴力追放パレードを実施するなど、県民総ぐるみによる暴力団排除気運の高揚を図った。

《暴力団排除講話実施回数及び受講者数》

項目	平成29年中		平成30年中		令和元年中	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
行政機関	33回	2,974人	28回	2,539人	31回	2,723人
企業等	52回	1,736人	45回	1,615人	46回	2,497人
計	85回	4,710人	73回	4,154人	77回	5,220人

〈3〉 施策の実施による成果(アウトカム)

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
検挙人員	73人	76人	59人
中止命令件数	2件	0件	0件

(4) 一般警察活動費、刑事警察費、緊急治安対策事業費（相談広報課）～犯罪被害者等支援推進事業

〈1〉 施策の目的

犯罪被害者等が早期に被害を回復し、身体・精神・経済的負担の軽減を図り、平穏な生活を取り戻すための支援活動を強化するとともに、社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さない街づくりのため、犯罪被害者支援に対する県民の理解を増進する。

〈2〉 施策の実施状況(アウトプット)

ア 警察の各種支援制度を的確に運用したほか、公益社団法人かごしま犯罪被害者支援センター等と連携して、電話又は面接相談、裁判の付添い、相談員の養成及び研修を行うなど、犯罪被害者等に対する途切れのない支援を行った。

《公費負担制度等の状況》

項目	平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中
カウンセリング	39回	69回	29回
身体犯被害者診断書手数料	12件	28件	25件
性犯罪被害者診察等経費	29件	16件	26件

《かごしま犯罪被害者支援センター活動状況》

項目	平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中
相談受理	477件	980件	1,009件
直接支援	61件	172件	201件
専門家支援	34件	34件	40件
相談員養成研修	10回	11回	15回

イ 社会全体で被害者を支える気運の醸成と規範意識の向上を図る取組として、将来を担う中学生・高校生を対象に犯罪被害者等の講演による「命の大切さを学ぶ教室」を開催したほか、犯罪被害者支援フォーラム等の広報啓発活動を行った。

《広報啓発活動状況》

項目	平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中
命の大切さを学ぶ 教室開催	開催学校数 14校 (中学8校, 高校6校)	10校 (中学6校, 高校4校)	8校 (中学4校, 高校4校)
	聴講者 3,686人	4,500人	3,880人
広報啓発活動	40回	39回	37回

〈3〉 施策の実施による成果(アウトカム)

ア 警察の各種支援制度を的確に運用したほか、公益社団法人かごしま犯罪被害者支援センター等と緊密に連携して効果的な被害者支援を行うことができた。

また、カウンセリング等の実施により、犯罪被害者等の精神的負担を軽減することができた。

イ 次世代を担う若者に対し、犯罪被害者等への理解と共感を深めるとともに、命を大切にす意識や規範意識の醸成を図ることができた。

(5) 交通安全保持費（交通規制課）～交通安全施設等整備事業

〈1〉 施策の目的

交通信号機の新設、道路標識の更新、横断歩道の整備など、交通安全施設の整備を推進し、慢性的な交通渋滞の緩和、交通事故防止及び交通の円滑化を図る。

〈2〉 施策の実施状況(アウトプット)

県単事業		
大型標識		0本
路側標識		755本
標示	横断歩道	58.1Km
	実線	80.3Km
	図示	1,456個
交通信号機改良等		7基
交通信号機LED化		34灯
交通信号機新設		3基
交通信号機移設		16本

補助事業		
路側標識		30本
標示	横断歩道	12Km
交通管制センター増強整備		1式
集中制御機		40基
情報収集装置		1式
交通信号機改良等		139基
交通信号機LED化		1,286灯
交通信号機新設		3基
交通信号機移設		80本

〈3〉 施策の実施による成果(アウトカム)

交通安全施設の整備を実施し、交通渋滞の緩和、交通事故防止、交通の円滑化等県民の安全で快適な交通環境の維持が図られた。

(6) 交通事故抑止特別対策費（交通企画課） ～交通事故抑止特別対策事業

＜1＞ 施策の目的

交通事故を抑止するために、効果的かつ総合的な交通事故抑止対策の立案，検証及び分析システムを活用した交通事故情勢等の分かりやすい情報発信を推進するとともに，事故多発路線，多発時間帯等における交通指導取締り等を強化し，総合的な交通事故抑止対策を推進する。

《目標》

項目	目標
第10次鹿児島県交通安全計画	令和2年までに交通事故死者数：62人以下 交通事故死傷者数：7,500人以下

＜2＞ 施策の実施状況(アウトプット)

幼児から高齢者まで，段階に応じた交通安全意識の高揚を図るため，各方面への交通安全教育活動を推進した。

また，悪質・危険性，迷惑性の高い違反態様に重点を指向するとともに，交通事故抑止に機能する交通指導取締りを推進し，特に死亡事故が多発するおそれが強い週末，夜間における著しい速度超過違反や飲酒運転違反に対する効果的な取締りを実施した。

＜3＞ 施策の実施による成果(アウトカム)

各種施策を推進した結果，令和元年中は，前年より，交通事故発生件数，負傷者数，死者数ともに減少し，死者数については，第10次鹿児島県交通安全計画で定める目標を初めて達成した。

ア 人身事故発生状況

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
発生件数	6,564件	5,833件	4,771件
死者数	66人	64人	61人
負傷者数	7,696人	6,819人	5,532人

イ 道路交通法違反等検挙状況

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
無免許	254件	239件	233件
飲酒	398件	386件	314件
速度	13,047件	11,196件	8,958件
その他	62,930件	57,340件	54,098件
合計	76,629件	69,161件	63,603件

ウ 放置駐車違反検挙状況

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
検挙件数	5,195件	4,940件	6,119件

(7) 高齢者対策事業費（交通企画課） ～ 高齢者交通安全対策事業

＜1＞ 施策の目的

安全で安心できる交通社会を形成するためには，高齢者の交通安全対策を強化する必要があることから，シルバーナイトスクールの開催や参加・体験型交通安全教育，関係機関・団体と連携した高齢者への個別指導，運転免許自主返納の理解促進，広報啓発活動等を推進強化する。

〈2〉 施策の実施状況(アトブツト)

ア 高齢者対象の交通安全教育(実施回数・受講者数)

項目	平成29年中		平成30年中		令和元年中	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
さわやか号による出前型交通安全教育	219回	5,260人	217回	4,704人	214回	4,850人
シルバーナイトスクール	36回	1,496人	55回	2,081人	37回	1,353人
電動車いすを活用した参加・体験型講習	61回	1,165人	77回	731人	67回	479人
高齢者交通安全教室・講話	1,411回	54,587人	1,268回	45,278人	1,022回	36,786人
計	1,727回	62,508人	1,617回	52,794人	1,340回	43,468人

イ 「三師会」との連携による広報及び交通安全一ロードバイス

ホームページを活用した広報，病院等窓口での一ロードバイス，高齢者向け交通安全啓発ポスター「交通安全お薬説明書」による広報及び「交通安全情報」の毎月発行を実施した。

ウ 在宅福祉アドバイザー等高齢者宅訪問活動による交通安全一ロードバイス

訪問活動員用パンフレット「高齢者交通安全指導のポイント」を作成・配布(5,000部)するとともに，高齢者交通事故防止用広報誌「年輪」の毎月発行を実施した。

エ プラス1(ワン)運動の実施

過去の高齢歩行者の交通死亡事故の分析結果を基に，高齢歩行者に気をつけるべき3つの事項(①道路横断時の左の再確認，②夜光反射材，③明るい服装)を盛り込んだプラス1運動を実施し，交通事故防止を図った。

オ 運転免許自主返納支援制度による高齢者の免許返納促進

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
男性返納者	3,061人	3,340人	3,904人
女性返納者	2,507人	2,698人	3,693人
計	5,568人	6,038人	7,597人

自治体・事業所等が行う支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タクシー料金割引</li> <li>・ 商品券等交付</li> <li>・ 生活支援等に係る地域包括支援センターへの連絡 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス・市電料金割引</li> <li>・ 宿泊，飲食代割引特典</li> </ul>
-----------------	--	---

カ 「ちゃいっぺ心で補償運転」の啓発

高齢運転者に対し，加齢に応じた望ましい運転の在り方について自覚を促すために，補償運転の代表的な内容を「慌てず，急がず」という意味を持つ「ちゃいっぺ」に折句として盛り込んだ「ちゃいっぺ心で補償運転」の啓発活動を実施した。

〈3〉 施策の実施による成果(アトカ)

高齢者に対して参加・体験型の交通安全教育や個別指導など各種施策を推進した結果，高齢者事故の構成比は増加したものの，高齢死者数が減少するなど一定の成果を挙げた。

《交通事故死者数等》

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
死者数	66人	64人	61人
高齢死者数	42人	39人	37人
高齢死者の構成比	63.6%	60.9%	60.7%
高齢者事故の構成比	40.5%	41.2%	44.2%

(8) 警察職員庁用費，青少年非行防止対策費，緊急治安対策事業費（少年課）～少年非行防止・保護総合対策事業

＜1＞ 施策の目的

児童・生徒の非行防止，犯罪被害防止及び健全育成活動のため，警察と学校の橋渡し役であるスクールサポーターの活動を積極的に推進するとともに，地域社会が一体となった「非行少年を生まない社会づくり」を強力に推進する。

＜2＞ 施策の実施状況(アウトプット)

ア スクールサポーター

児童生徒の問題行動や犯罪被害未然防止のため，警察と学校の連絡・調整や少年非行に関する情報提供，不審者対策の下校指導などを積極的に推進した。（県内11署に配置，ブロック運用中）

イ 少年警察ボランティア

少年の非行防止や保護活動を通じて少年の健全育成を図る上で，少年警察ボランティアの活動は極めて重要かつ不可欠なものであることから，地域に密着したきめ細やかな活動を展開した。

ウ 非行防止教室

低年齢少年対策として，少年サポートセンター鹿児島中央駅分室職員を中心として，TT教室（チームティーチング方式による警察官と教諭との協働授業）をはじめとした非行防止教室により少年の規範意識の醸成に努めた。

エ 広報啓発活動

犯罪の未然防止のため，ラジオ放送，大型電光掲示板（ビジョン）放映を利用した広報啓発を実施した。

＜3＞ 施策の実施による成果(アウトカム)

ア スクールサポーター

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
スクールサポーター人員	11人	11人	11人
学校・通学路等のパトロール	13,516回	18,108回	20,415回
学校等の安全点検	4,964回	6,394回	9,042回
学校訪問	3,223回	4,216回	5,280回
情報発信活動	3,084回	3,871回	3,852回

イ 少年警察ボランティア

項目	平成29年中	平成30年中	令和元年中
街頭補導活動	363回	366回	208回
環境浄化活動及び社会参加活動	119回	116回	145回

ウ 非行防止教室

項目	平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中
非行防止教室	421回	476回	378回
うち薬物乱用防止教室	186回	142回	151回
うちTT教室	131回	133回	88回

エ 広報啓発活動

項目	平成29年度中	平成30年度中	令和元年度中
大型電光ビジョン広報	2,280回	3,500回	3,730回